

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28040 プログラム名 【保健室の先生（養護教諭）になっちゃおう】



開催日：平成28年7月16日(土)  
平成28年7月17日(日)  
実施機関：北翔大学  
(実施場所) (7号棟724教室)  
実施代表者：今野 洋子  
(所属・職名) (教育学部・教授)  
受講生：中学生・高校生  
関連URL:

【実施内容】

1. 受講生にわかりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点
  - ・養護教諭体験(ロールプレイング)を重視したプログラムとし、養護教諭の保健室での対応の科学的根拠を理解できるような内容としました。
  - ・書き込んだり、確認したりできるようなオリジナルテキストを用意しました。
  - ・テキストのイラストは、親しみやすいものにしました。
  - ・受講生には1グループに必ず補助学生が2名つくようにし、受講生が楽しく積極的に参加できるようにしました。
  - ・一つの教室の中で、講義と体験ができるような会場を設定し、ベッドやソファを置いた保健室のような実習場をつくりました。



2. 当日のスケジュール

10:30～受付開始

11:00～11:10 開会式:挨拶・オリエンテーション

11:10～11:20 ①講義「科学研究費の説明」(講師:今野洋子)

11:20～12:00 ②講義「養護教諭の役割と保健室の機能、健康相談活動について」(講師:今野 洋子)

12:00～13:00 昼食・休憩(学生食堂)

13:00～13:10 ③実習 聴き方エクササイズ

13:20～13:40 ④実習 からだのしくみパズル

13:40～14:00 ⑤実習 バイタルサイン測定

13:30～13:40 ⑥参観 実習補助学生のデモンストレーション

13:40～14:00 ⑦実習 養護教諭体験

14:00～14:20 ⑧実習 スペシャルカード作成

14:20～14:40 クッキータイム・ディスカッション

14:40～15:00 閉会式:挨拶・未来博士号授与・

記念撮影・アンケート記入

15:00 終了・解散



### 3. 実施の様子

#### ①受付から開会式まで

- ・補助学生が、受講者のみなさまを会場までご案内しました。
- ・机の上に、事前に使用するタオルやぬいぐるみ・名札等をセットしました。
- ・会場の入り口で、使用するエプロンを受講生に選んでもらい、席につくようにしました。
- ・まず、危機管理について説明し、避難経路等について説明しました。
- ・プログラム中に撮影した写真を学術振興会や本学のHPの載せることについて説明し、不都合のある方は終了までに申し出ていただくようお願いしました。
- ・挨拶の後、資料をもとに科学研究費についての説明をおこないました。

#### ②講義・参観・実習

- ・オーストラリアのライフエデュケーションセンターで教材として活用されているカーペットキッド(布製の解剖図)を用意し、自分たちで内蔵を置きながら、楽しく学ぶことができる実習を設けました。
- ・バイタルサインの測定実習では、補助学生がていねいに指導しながら、受講生がじょうずに測定できるよう支援しました。
- ・実際にどのように健康相談活動をすればよいか、補助学生のデモンストレーションの参観を通し、学びました。デモンストレーション中、「おなかが痛いという訴えの場合は『悲しい気持ち』がひそんでいることが多いのです」「ぬいぐるみを抱くことで、そのぬいぐるみに自分の心を映し、抱かれているような安心感を得られるのです」等、養護教諭の健康相談活動の科学的根拠について示しました。
- ・保健室に置く、元気がでるような、気持ちがやわらぐようなスペシャルカードを作成しました。受講生も補助学生も、積極的に真剣に取り組み、すてきなカードを作成しました。
- ・オリジナルテキストに記載したアセスメントシートと同じ形式のプリントを用い、それをもとに、受講生が養護教諭役として、児童生徒役の大学生に対応する養護教諭体験を行いました。実習場を使用して、保健室の中のもの上手に活用しながら活動することができました。
- ・養護教諭体験の後、「〇〇先生は、やさしくひざかけをかけてくれて、とてもよかったです」等、補助学生が受講生の養護教諭役について発表する時間を設けました。どの受講生もやさしくてすてきな養護教諭の先生になれました。

#### ③閉会式

- ・修了証書は、ひとりひとりに手渡されました。
- ・記念写真では、それぞれが修了証書を胸に撮影しました。



#### 4. 事務局との協力体制

- ・実施教員と事務局とで準備の段階から連携を取り、それぞれの役割を明確にしたうえで、協力して実施。
- ・事務局には、各書類の取りまとめ、発送、保管、変更修正等の手続き業務、委託費の出納管理、収支報告書の作成、学術振興会との連絡調整、損害保険の契約業務、学内への周知業務、広報活動の協力等。

#### 5. 広報活動

- ・カラーのちらしを作り、PRしました。
- ・江別市教育委員会を訪問して協力を依頼し、ご後援をいただきました。
- ・札幌市教育委員会からも、ご後援をいただくことができました。
- ・同窓会のニューズレターに本事業の記事を載せてもらいました。
- ・大学教員が学校訪問をする際に、配布をお願いしました。
- ・江別市および札幌市のタウン誌まんまる新聞に、掲載してもらいました。
- ・教育学科のニューズレターに記事を載せてもらいました。
- ・教育学科が各高校にニューズレターを送付する際にちらしを3枚ずつ入れていただきました。

#### 6. 安全配慮

- ・はじめに、災害や事故が起きた場合の留意事項を掲載したプリントを配布し、避難経路についても説明し、安全確認を行いました。
- ・受講者全員を傷害保険に加入させました。
- ・実施者・協力者で、事前の打ち合わせの際に安全確認を行い、避難訓練を実施し、当日何が起きても受講生を安全に誘導できるよう徹底しました。
- ・救急車要請の方法についても確認しました。

#### 7. 今後の発展性、課題

- ・科研費について、参加者のみなさまの理解が深まり、養護教諭体験を通して楽しく学ぶことができたことが、アンケート結果から捉えられ、本当にうれしく思います。
- ・江別市教育委員会・札幌市教育委員会・本学同窓会・本学の教職員のみなさまの本事業に対する理解も回を重ねるごとに深まり、円滑な協力体制となっています。
- ・このような機会をいただきまして、大きな励みとなりました。また、中学生や高校生と楽しく過ごすことができ、とてもすばらしい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・本事業を実施することは、とても楽しく有意義なことですので、ぜひ、今後も継続して応募したいと考えております。

#### 【実施分担者】

1	浅尾 秀樹	教育文化学部	教育学科	教授
2	佐々木 邦子	教育文化学部	教育学科	教授
3	佐藤 朱美	教育文化学部	教育学科	教授
4	佐々木 浩子	教育文化学部	教育学科	教授
5	山崎 正明	教育文化学部	教育学科	教授
6	丸岡 理香	教育文化学部	教育学科	准教授
7	小杉 直美	教育文化学部	教育学科	教授
8	西出 勉	教育文化学部	教育学科	教授
9	諏江 康夫	教育文化学部	教育学科	教授
10	石塚 誠之	教育文化学部	教育学科	講師



【実施協力者】 本学学生12名

【事務担当者】 千広 敦子 総務部総務課